巻頭特集

満ちる熱気が
彦根のまちを席巻

YOSAKOIソーラン日本海
彦根三十五万石大会

彦根で今年第4回目を迎える踊りの祭典「YOSAKOIソーラン日本海 彦根三十五万石大会」は、市内各所を会場として、二日間にわたり開催される。初夏の彦根城下に響きわたる掛け声と太鼓のリズム。大賞の栄誉をかけて、熱い闘いが繰り広げられる。

稽古に励むメンバー。鏡に向かって動きを細かく確認する

青少年の健全育成と地域活性化を目指して

「YOSAKOIソーラン日本海」が組織として立ち上がったのは、今から約20年前。創始者は、現参議院議員の長谷川岳氏である。当時北海道大学の学生だった長谷川氏が高知を訪れた際に、高知よさこい祭りと出合ったことがきっかけとなる。高知のよさこいと北海道のソーラン節を組み合わせて生まれたのが、よさこいソーランだ。長谷川氏と親交のあった北陸の桶谷茂樹氏が中心となり、これを日本海でも立ち上げようと、「YOSAKOIソーラン日本海」が誕生した。富山県から滋賀県まで、ほぼ同時期に発足し、石川県の能登に本部を置く。

発足当初から、滋賀県木之本のチームに所属していたのが彦根の三輪勇さんだ。会社員だった三輪さんは、彦根の青少年指導委員会のメンバーでもあった。当時、彦根は飲酒、喫煙、無免許運転など、少年少女が荒れていた。指導委員として学区12町を駆けずり回り、頭を悩ませる日々。そんな折、地域の600人が集まる地域安全委員会が開催される。その席で木之本チームによる、YOSAKOIソーランの新曲初披露がなされた。それをきっかけとして、彦根に新チームが発足。三輪さんが統括をつとめるチーム「舞宇夢(ぶうむ) 赤鬼」である。週に3回、2時間の踊りの練習が始まった。そこで地域の青少年は地域で守ろうと、非行少年も含め、子どもの境遇に関わらず分け隔てなく預かった。踊りで一番大切なのは笑顔である。初めは笑顔をつくれず、にらみつけることしか知らなかった少年たち。さまざまな世代の仲間と関わるうちに、顔つきが変わっていく。そして次第に温厚になっていく。それだけでなく、踊りの練習を通して集中力が培われ、分からないことは徹底して聞く習慣がついた。勉強ができず、学校の定期テストで低い点しか取れなかった子が、大きく点数を伸ばした。塾へも通わず、難関大学に合格する子も出はじめた。

必見！ファイナルステージをかけて各チームが激突

三輪さんが実行委員長をつとめる彦根三十五万石大会は、実質的には今年で8回目を迎える。YOSAKOIソーランの公認イベントとしては、4回目となる。

現在、4歳から62歳までのメンバーが所属する「舞宇夢 赤鬼」は、昨年の彦根三十五万石大会で大賞を取っている。このチームの踊り手は、金襴緞子(きんらんどんす)の衣装を着けて踊る。手に持つ舞扇子、太鼓、傘、鳴子なども含め、全て職人によってつくられた「本物」。艶やかな衣装を身にまとい、躍動感あふれる踊りを披露する彼らには、全国どこへでも追いかけてくる、熱狂的なファンもいる。

もうひとつ、YOSAKOIソーランの見せ所は、何と言ってもバックである。たとえば彦根での大会なら、彦根藩伊井家の家紋入りの幟がはためき、金屏風や大扇子、石垣や城など、まるで大掛りな舞台装置だ。それを背景に、旗師と呼ばれる男性が、6メートル四方もある旗を振る。旗の重さは12キロ。風が出ると17〜18キロにもなる。旗師はそれを、4分と少しの演舞の間中、振り続けなければならず、一度でも旗を地面につけたら、その役目は失格なのだ。

「舞宇夢 赤鬼」は、ボランティアで、市内の老人施設や市立病院の慰問を行っている。小学校3年生からチームに所属し、現在高校1年生の荒川真実さんにYOSAKOIソーランの魅力を尋ねてみた。「私たちの踊りを見て泣く患者さんやお年寄りを見たとき、元気を分けてあげられたかなと思えます」という答えが返ってきた。

今年の彦根三十五万石大会では、今のところ、北陸から約10チーム、滋賀県内から約10チームの参加が予定されている。地元の滋賀大学や龍谷大学、同志社大学のチーム。加えて全国各地から招待を受ける有名チーム、福井県の「越前一張羅&キャンディホップS・J」が新曲を初披露するということで、かなりの激戦が予想される。まずは初日に市内4カ所の会場で審査が行われる。そこでファイナルに残ったチームだけが、最終日のステージに上がる。厳正な審査を期するため、札幌から審査員を呼んでおり、大賞が決定される。大賞に選ばれたチームは、更に石川県での大会へ駒を進めることになる。

昨年の、二日間の観客総動員数は、実に7万人というこの一大イベント。東日本大震災復興支援イベントとしての側面もあるが、大会の開催を地元の活性化につなげたいとの熱い思いが、主催者にはある。そのためにも、市民、企業、行政が一丸となって、盛り上げていきたいものである。

荒川 真実さん
踊りのセンターをとるために、メンバーがライバルとなって刺激し合いながら練習しています

三輪 勇さん
行政と地域が一体となって、青少年の育成に力を入れていかなくてはいけない。忙しい毎日です

information

YOSAKOIソーラン日本海 彦根三十五万石大会

6/22（土）
- 13:00 JA東びわこ稲枝支店会場
- 14:00 ビバシティ会場
- 15:00 彦根市役所会場
- 16:00 彦根城大手前公園会場

6/23（日）
- 9:30 パレード演舞 彦根駅前通り会場
- 12:00 ステージ演舞 彦根城大手前公園会場
- 18:00 ファイナル演舞 彦根城大手前公園会場

エンヤーレン
ソーランソーランソーラン
灯り織りなす玄宮園に
夕月浮かぶ琵琶の湖
ヤサエンヤーサー
サエー

『舞宇夢 赤鬼』『華麗なる鼓動』 より抜粋

↓扇子は京都でつくられる舞扇子を使用。道具も衣装も、すべて上質のものを使うのが赤鬼の特長

↑太鼓を手に持ち、打ちながら練り歩く。生演奏の迫力は満点だ

文／石川麻子　写真／三輪勇さん 提供　デザイン／chica